

平成17年11月4日

報道機関各

東北大学大学院工学研究科

東北大学と米国原子力規制委員会が大学として日本初となる共同研究契約を締結し共同研究を開始

東北大学は、9月1日付で米国原子力規制委員会（USNRC）と「加圧水型原子炉におけるニッケル基合金及び異種金属継手の応力腐食割れに関する非破壊検査の国際共同研究プロジェクト」に関する契約を締結し、共同研究(研究代表者 庄子哲雄 理事(研究担当))を開始した。本プロジェクトは2007年12月まで続き、非破壊検査技術の高度化を図ることで高経年化を迎える原子炉の信頼性向上、健全性確保をより確実にすることを旨とする。

USNRCは、応力腐食割れ研究の世界的拠点である東北大学大学院工学研究科附属エネルギー安全科学国際研究センターや先端的非破壊検査技術の開発に取り組む東北大学との共同研究により国際共同研究の充実を図る。今後参加機関である米国のパシフィックノースウエスト国立研究所や電力中央研究所、スウェーデン原子力検査局などとの具体的共同研究を開始する。日本からは東北大学以外に原子力安全基盤機構などが参加する。このような共同研究は国立大学が法人化することにより可能となったもので、USNRCとしても初めてであり、今後このような国際協力関係がさらに広がることが期待される。

用語説明

「非破壊検査」

物を壊さずに、きずの有無・その存在位置・大きさ・形状・分布状態、あるいは劣化の状況を調べること。

「応力腐食割れ」

金属に腐食環境下で応力が働いている場合、その腐食環境にない場合より低い応力で破壊すること。

(お問い合わせ先)

東北大学理事(研究担当) 庄子哲雄 Tel:022-217-5335
東北大学大学院工学研究科

ナノメカニクス専教授 坂真澄 Tel:022-795-6890